自ら学び　他者と響き合い　未来を切り拓く　健やかな生徒の育成

庭中だより

2026年10月28日号　校長 原田 英和

全国学力・学習状況調査の結果概要

４月22日（水）～24日（金）、３年生を対象に実施しました「令和８年度 全国学力・学習状況調査」について、結果を分析しました。その概要をお知らせします。

（１）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習状況の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査内容

○教科に関する調査

国語　15問　【話すこと・聞くこと/書くこと/読むこと/言葉の特徴や使い方/情報の扱い方/我が国の言語文化】に関する調査問題

数学　16問　【数と式/図形/関数/データの活用】の４領域に関する調査問題

英語　９問　【聞くこと/読むこと/話すこと/書くこと】に関する調査問題

○質問調査

（３）教科に関する調査結果及び分析

＜国語＞

平均正答数　　庭中　9.2/ 15問　　府（公立）9.1/ 15問　　国（公立）9.6/ 15問

正しい語句の使い方や意味についての選択問題は、正答率も高く、また無解答率もOだった。知識を問う問題は前向きに取り組む生徒が多いことが、正答率や無解答率からも読み取れる。ただ、条件がいくつかあるものを網羅して、記述する問題は正答率が低く、無解答率も高かった。書くことに抵抗感をなくし、問題をよく読み丁寧に解答をする姿勢をもたせていく必要がある。

＜数学＞

平均正答数　　庭中　9.3/ 16問　　府（公立）8.8/ 16問　　国（公立）9.1/ 16問

知識・技能を問う確率やデータの活用の問題は、正答率からも基本的な知識の定着ができている。また、図形の証明をするために筋道を立てて方法をあきらめずにいろいろな方法を考えようとする生徒が多いように感じた。一方で、文章から問われていることを読み取る問題では無解答率が高かった。授業でも、文章題になると情報を整理して立式することが苦手でもあり、課題でもある。

＜英語＞

平均正答数	庭中　4.3/ 9問	府（公立）4.4/ 9問	国（公立）4.5/ 9問
技能別平均正答数			
【聞くこと】	庭中　1.1/ 2問	府（公立）1.2/ 2問	国（公立）1.2/ 2問
【読む・書くこと】	庭中　2.6/ 5問	府（公立）2.6/ 5問	国（公立）2.6/ 5問
【話すこと】	庭中　0.7/ 2問	府（公立）0.6/ 2問	国（公立）0.7/ 2問

文章の要点を読み取る問10(1)は57.3%で、全国48.3%・府48.2%を上回った。また、天気を伝える問15(1)の無解答率は2.9%（全国9.2%・府12.3%）で、この問題では多くの生徒が発話に取り組んでいる。

① 話全体の要点を聞き取る力

話し手が最も伝えたいことを選ぶ問５は41.9%（全国56.9%・府55.0%）であった。単語や一部の情報だけでなく、話全体の意味をつかむ練習が必要である。

② 場面に合った言葉でやり取りする力

明日の予定を伝える問15(2)aは24.1%（全国33.5%・府33.0%）だった。依頼する問題も全国・府を下回り、習った表現を実際の会話で使うことが課題である。

③ 考えと理由をつなげて伝える力

好きな人物の理由を話す問題に加え、考えと理由を書く問10(2)も21.8%（全国29.4%・府27.6%）だった。同問の無解答率は20.2%で、短い英文でも自分の考えを書けるようにすることが大切である。

（4）課題に向けた取り組み

＜国語＞

書くことに抵抗をなくすため、課題に対して自分の考えや意見を書く活動を続けていく。また、与えられた条件を的確に捉える練習も行っていく。意欲的な生徒が多いので、前向きに取り組もうと思える課題を提示する。また、「話す・聞く」の分野でも、多角的な視点を養うためにディベートなどの取り組みを行う。

＜数学＞

自分の考えを言葉で伝え、他者の考えを聞いて思考を深める姿勢は、今後も継続して育てていきたい。その中で、ペアや班活動を効果的に取り入れ、お互いの思考を共有・言語化するプロセスを大切にすることで、自力での立式につなげていきたい。

＜英語＞

授業では、聞いた話の要点を短くまとめ、予定や依頼を伝える会話練習を重ねることが有効である。また、身近な話題について「考え→理由」の順に２～３文で話し、その内容を書いて確かめる活動が大切である。iPadにはデジタル教科書を生徒全員が使えるようにしているので家庭でも、短時間の音読や音声を聞く習慣を支え、伝えようとした努力を認める声かけをお願いしたい。

（5）生徒質問紙調査より

【学校生活・自尊心・規範意識】
※%は質問に肯定的に（そう思う・どちらかと言えばそう思う）回答した割合を示しています。

設問	★全国平均以上		R7庭中	R8庭中	R8 全国
1	★	学校に行くのは楽しいと思いますか。	78.20%	87.20%	85.40%
2	★	自分には、よいところがあると思いますか。	81.20%	89.60%	84.00%
3		いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	93.90%	93.60%	95.10%
4	★	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	96.20%	96.80%	95.90%
5	★	人が困っているときは、進んで助けていますか。	85.70%	93.60%	90.80%
6	★	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	77.50%	87.20%	78.60%
7	★	友達関係に満足していますか。	93.20%	94.40%	91.20%
8	★	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	69.90%	76.80%	71.90%
9	★	先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	89.40%	94.40%	90.90%
10	★	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか。	85.00%	90.40%	87.00%
11	★	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	71.40%	88.00%	84.50%
12	★	学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	71.40%	84.80%	79.00%
13	★	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	91.10%	95.20%	91.30%
14	★	１，２年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をおこなっていましたか。	72.10%	75.20%	70.80%
15	★	１，２年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	81.20%	81.60%	78.80%
16		国語の勉強は得意ですか。	38.30%	31.20%	51.60%
17		国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	88.00%	84.80%	88.20%
18	★	数学の勉強は得意ですか。	50.40%	54.40%	48.50%
19	★	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	84.20%	76.80%	76.50%
20		英語の勉強は得意ですか。	なし	39.20%	39.50%
21	★	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	なし	88.80%	87.60%

＜学校生活・自尊心・規範意識＞

「学校に行くのは楽しいですか」の質問に対し、肯定的な回答の割合が87.4%（全国平均85.4%）で、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対する肯定的な回答が89.6%（全国平均84.0%）となりました。この結果より今年度の3年生は学校生活を楽しく過ごし、自己肯定感が高いことがわかります。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対し肯定的な回答が96.8%（全国平均95.9%）、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対する肯定的な回答が93.6%（全国平均90.8%）という結果から、相手の気持ちに寄り添い、気遣う心と自分のこと以上に相手やみんなのために尽くそうとする献身的な心がしっかりと育っていると言えます。そのような心の成長が良好な人間関係を構築する要因となり、「友達関係に満足していますか」の質問に対しての肯定的な回答が94.4%（全国平均91.2%）の結果につながっています。

先生との関係についても、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対し肯定的な回答が76.8%（全国平均71.9%）、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対する肯定的な回答が94.4%（全国平均90.9%）の結果が出ていて、先生が子どもたちの言葉にしっかりと耳を傾け、子どもたちの良いところを認めることが、子どもたちの心の安定につながると言えます。ただ、数字に表れない部分で悩みを抱えている子どももいると考えられるため、引き続き対話を大切にしていきたいと思います。

【家庭学習・家庭生活】

		設問　★全国平均以上	R7庭中	R8庭中	R8全国
22		朝食を毎日食べていますか。	86.50%	90.40%	90.90%
23		毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか。	77.40%	80.00%	80.50%
24	★	毎日，同じくらいの時刻に起きていますか。	89.50%	92.80%	92.40%
25	★	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	92.50%	97.60%	91.00%
26		学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)の日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。〔1時間以上〕	52.00%	51.20%	61.60%
		▽全くしない 20.0%／全国平均 6.9%			
27		土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。〔1時間以上〕	39.80%	32.00%	52.50%
		▽全くしない 42.4%／全国平均 13．4%			
28	★	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することができていますか。	81.90%	83.20%	78.20%

＜家庭学習・家庭生活＞

1日のスタートとなる朝食ですが90.4%（昨年度86.5%）という結果から、ご家庭の協力体制や生徒の意識も比較的高い状況であると言えます。起床・就寝時刻についても概ね生活習慣化されているように思います。規則正しい生活を送ることが健康面において、大変重要であるため、継続していきたいものです。

続いて、家庭学習についてですが、学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）の日、１日当たりの勉強時間（1時間以上）の割合が51.２％（全国平均61.6％）で、さらに「全くしない」が20.0％（全国平均6.3％）、土曜日や日曜日など学校が休みの日に１日当たりの勉強時間（1時間以上）の割合が51.2％（全国平均52.5％）でさらに「全くしない」が42.4％（全国平均13.4％）と非常に割合が高いことがわかります。家庭学習は、単に「学校のテストで良い点を取るため」だけのものではなく、子どもたちが将来にわたって自立して学び続ける力を養うための土台になります。ドリルワーク等のICT機器を利用した宿題や自ら課題を設定し、課題を解決することで、答えを見つけるような宿題を出していきたいと思います。

【将来のこと・社会のこと】

設問　　★は全国平均以上			R7庭中	R8庭中	R8全国
29		将来の夢や目標を持っていますか。	54.20%	60.00%	67.60%
30	★	地域や社会をよくするために何かしてみたいことはありますか。	71.50%	81.60%	72.30%

＜将来のこと・社会のこと＞

「将来の夢や目標を持っていますか。」の質問に対し、肯定的な回答の割合が60.0％（全国平均67.6％）と、全国平均に比べ、低い結果となりました。自己肯定感が高いにも関わらず、将来への不安を持つ子どもが多いということは、「将来の夢や目標」という言葉に対し、社会的にインパクトのある挑戦や明確にキャリア像を想定してしまい、ハードルを高く感じていることが考えられます。まずは「夢を持たせること」を目指すのではなく、「自分なりの基準で次のステップを選べた」という納得感を持たせることが、結果的に新たな目標づくりにつながると思います。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいことはありますか。」の質問に対しての肯定的な回答が81.6％（全国平均72.3％）と、非常に高い結果となりました。自己肯定感が高い人は「自分には価値がある」「自分も社会の役に立てる」という基本的な自信（自己効力感）を持っています。そのため、社会や地域の問題に対して「自分には関係ない」と排他的にならず、「何かできることがあればやりたい」という前向きな態度につながりやすくなります。また、子どもたちが普段過ごしている地域や学校などのコミュニティに対して「居心地が良い」「自分を受け入れてくれている」と感じている証拠でもあります。コミュニティへの愛着や安心感があるからこそ、「この場所や人々のために恩返しがしたい」という協調的な貢献意欲が生まれると思います。学校・保護者・地域が連携して子どもたちを見守っていく形を継続できればと思います。

最後になりますが、今後も様々な行事の取り組みを通じて子どもたちに達成感を実感させるとともに、子どもたちとの対話を大切にし、学校教育目標「自ら学び 他者と響き合い 未来を切り拓く 健やかな生徒の育成」を念頭に学校運営を進めて参りたいと思います。